

11月15日（金）映画の撮影が行われました

11月15日（金）に「筆と弓」の撮影が、當麻小学校で行われました。この映画は、宗胤院の書家宮下寛昇さんと世界的なスイスのバイオリニスト、テディ・パパヴラミさんとの書とバイオリンによるコラボレーションを映画にしたものです。

まず、子どもたちがフランス語で挨拶をし、お二人からバイオリンの弓と筆は馬の毛であることを教えていただきました。次に、3つの言葉「楽しい」「美しい」「深刻」が提示され、それに沿ってテディさんのバイオリンの音色を聞き、宮下さんが、感じたことを詩にして書にしたためられました。そして、子どもたちが、深刻、楽しい、美しいの順に感じたことを自由に書に表しました。子どもたちが、書にしたための文字は様々で、「魅力」「幸せ」「美」「快心」「信頼」などが並びました。その後、宮下さんが、子どもたちに、まっすぐ線を書く方法、薄く書く方法、影をつける方法、墨について教えてくださいました。宮下さんは、「性格が違うものがあったても、組み合わせればよいものができる。お互い合わないなと思っても、良いところを見つけて仲良くしましょう。」とおっしゃっていました。また、テディさんは、書に書くなら「調和」「ハーモニー」と書きますとおっしゃっていました。

素晴らしいパフォーマンスの後、子どもたちは、手作りのうちわと歌をプレゼントしました。映画の撮影に、最初は緊張していた子どもたちも、温かい交流ができとても満足していました。この映画は、来年葛城市内小中学校で公開される予定です。

